

Hi! アンドレです

社会教育指導員
アンドレ・エスタニスラオ

日本で、春が到来し、桜の花が咲き始める頃、フィリピンでは、既に夏が到来しています。私は、3月24日から4月8日までの2週間、フィリピンの実家に帰ってきました。私がフィリピンに到着したとき、現地は本当に暑かったです。気温は毎日32℃位ありました。私がマニラに到着した2日後、私は両親とフィリピンの中で最も有名なビーチの一つである「ボラカイビーチ」に行きました。そのビーチは、多くのビーチリゾート、ホテルとレストランがある小さな島です。私は、水に濡れることは、好きではありません。しかし、海の水はとても、美しく、透き通っていて、ビーチの砂は白い粉のようで、朝食の後に毎日泳ぎました。私は、本当に太陽が大好きです。私が小野町に来てから、この地域は、とても寒いので、日光浴をする機会は全くありませんでした。私たちが、ビーチに行った時、私は、いつも泳ぐ前後に、日光浴をしました。みなさんが、フィリピンを訪れる機会がありましたら、是非この有名なビーチを訪問することをお勧めします。

日本では、4月の終わりと5月の初めにかけて、ほとんどの人が、日本や外国に旅行をし、ゴールデンウィークを楽しんでいます。私は、去年、日本の人々が久しく会わなかった家族や友人達と楽しく旅行をしたり、一緒に過ごしたりしていることに気がきました。実際に、フィリピンでも、仕事や学校が休

日になる週が存在します。私がこの春、家に帰っていた間は、まさにその週でありました。ほとんどの人が知っていると思いますが、フィリピンはカトリックの国です。ゴールデンウィークのかわりに、フィリピン人は4月の最初の週に、「聖なる週間」を祝います。この週に、私たちは、イエスキリストの情熱と死を思い出し、記念の式を行うのです。また、この週に、多くのフィリピン人が、家族や友人に会うために、それぞれの故郷に里帰りをします。夏でもあることから、多くの人々が、ビーチに行きます。

私は、今度のゴールデンウィークにおいて、みなさんの旅行が、事故が無く、とても有意義なものとなるように祈っております！



ボラカイビーチで両親と

ふるさと小野町会 ふれあい通信 都会に暮らして

吉成 誠一
(谷津作出身・東京支部)

よく時が過ぎるのは速いものと言いますが、ふるさと小野町を離れて19年が過ぎました。この19年間は「光陰矢の如し」、あつという間に時が経ちました。私は高校卒業後、直ぐに就職し小野町を離れたので、小野町の在住期間は18年間でした。この間に様々な出来事がありました。それが、それら一つ一つが今でも鮮明に思い出します。

叔父が以前「東京に来て40年になるが、田舎で過ごした16年間の方が長い感じがする。」と言っていました。その時は、「そんなものかなあ」としか感じなかったが、最近になってその意味が分かってきました。休暇で実家に帰ると、子供連れの時に犬を連れて遊んだ裏山に何故か行

きたくなります。しかし、裏山に出かけずに休暇を終えて実家を後にすると、行けばよかったと後悔してしまいます。その裏山には特別何かがあるわけではないのですが、なぜかその様な気持ちになってしまいます。

この様な感情はこの19年間で殆ど有りませんでした。今後何年間小野町を離れて暮らすかは分かりませんが、これからの生活の中でこういった感情が出てくるかどうか楽しみです。

最後に、私が都会で暮らして感じることは、小野町に住んでいた時には気付かなかった事が、今になって様々な感情として湧き上がる事です。小野町は私の自慢できる故郷であり、そして帰る場所があるという安心感を強く与えてくれるところだと思います。

